

2025年1月29日

IPBES総会第11回会合結果報告会

IPBES総会第11回会合結果概要

環境省自然環境局生物多様性戦略推進室

鈴木 渉

IPBESの概要

生物多様性及び生態系サービスに関する 政府間科学－政策プラットフォーム (IPBES)



Intergovernmental Science-Policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services

- 2012年4月設立。事務局はドイツ・ボンに所在。
※「生物多様性版のIPCC」とも呼ばれる
- 独立した政府間組織(参加国が設立)。
UNEPが事務局機能を提供。
- 目的(ミッション)
生物多様性の保全と持続的利用、長期的な人間の福利、持続的発展のための、生物多様性と生態系サービスに関する科学-政策インターフェイスの強化
- 4つの機能
①科学的評価(アセスメント)、②知見生成、
③政策立案支援、④能力養成
- 加盟国: 147カ国(2025年1月1日現在)
- 2024年6月「ブループラネット賞」受賞(同年10月表彰)



デビッド・オブラIPBES議長



アン・ラリゴデーリIPBES事務局長



橋本 禪

学際的専門家パネル(MEP)共同議長

日本からのIPBESへの貢献

日本人専門家による IPBESアセスメント執筆者 としての参画(例) ※敬称略

〈ネクサス評価〉

齊藤 修
統括執筆責任者(CLA)
IGES

〈社会変革評価〉

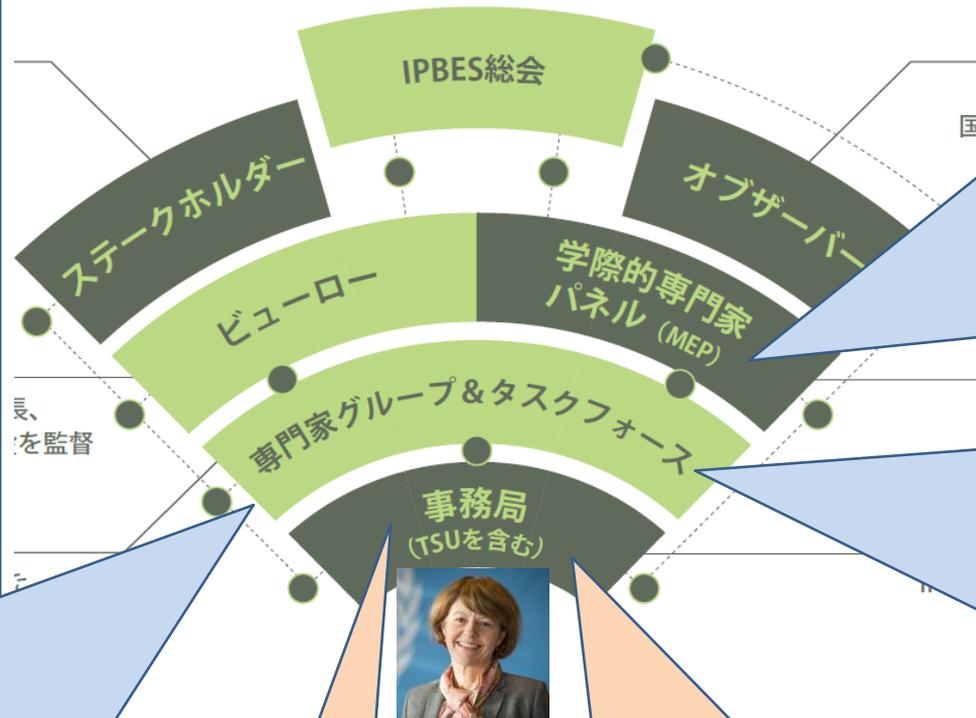
西 麻衣子
主執筆責任者(LA)
国連大学高等研究所

〈ビジネスと生物多様性評価〉

香坂 玲
統括執筆責任者(CLA)
東京大学大学院教授

〈モニタリング評価〉

村岡 裕由
主執筆責任者(LA)
岐阜大学



日本人専門家のMEP 共同議長への就任



橋本 禅
MEP共同議長
東京大学大学院教授

※シナリオモデルのタ
スクフォース共同議長
としても貢献

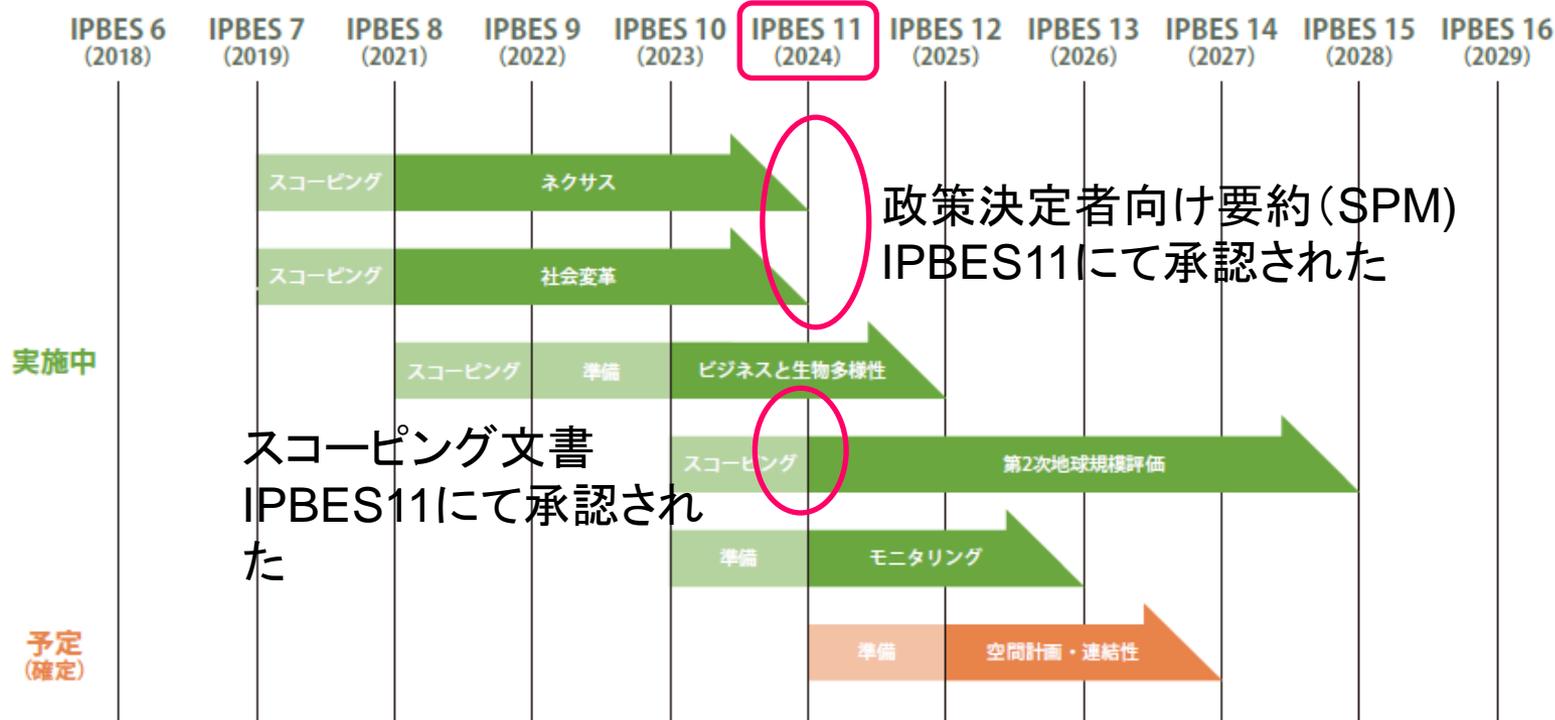
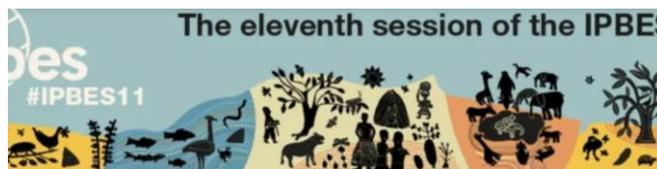
環境省によるIPBES
信託基金への資金拠出
2025年:約19万ドル
IPBES11にてプレッジ済
(世界7位)

IPBES技術支援機関(TSU)のホスト
(ホスト機関:地球環境戦略研究機関(IGES))

- ・シナリオ・モデルタスクフォースTSU(2024年～)
- ・侵略的外来種アセスメントTSU(2019年～2024年)
- ・アジア・オセアニア地域アセスメントTSU(2015～2019年)

実施中(及び予定)のIPBESアセスメント(科学的評価)

2024年3月現在、「生物多様性、水、食料及び健康の間の相互関係に関するテーマ別評価(ネクサス評価)」、「生物多様性の損失の根本的要因、変革の決定要因及び生物多様性2050ビジョン達成のためのオプションに関するテーマ別評価(社会変革評価)」、「生物多様性及び自然の寄与に係るビジネスの影響と依存度に関する方法論的評価(ビジネスと生物多様性評価)」、「生物多様性と自然の寄与のモニタリングに関する方法論的評価(モニタリング評価)」、「生物多様性と生態系サービスに関する第2次地球規模評価(第2次地球規模評価)」が実施されています。また、「生物多様性を考慮した統合的空間計画と生態系の連結性に関する方法論的評価(空間計画・連結性評価)」が予定されています。



本日のプログラム

開会

IPBES総会第11回会合結果概要

環境省自然環境局
生物多様性戦略推進室長
鈴木 渉

IPBES総会第11回会合に関する専門家所見

東京大学大学院
農学生命科学研究科
教授 橋本 禪

「生物多様性、水、食料及び健康の間の相互関係に 関するテーマ別評価（ネクサス・アセスメント）」 政策決定者向け要約（SPM）概要

公益財団法人
地球環境戦略研究機関
上席研究員 齊藤 修

「生物多様性の損失の根本的要因、変革の決定要因及び生物多様性 2050ビジョン達成のためのオプションに関するテーマ別評価 （社会変革アセスメント）」 政策決定者向け要約（SPM）概要

国連大学
サステイナビリティ高等研究所
（UNU-IAS）
リサーチフェロー 西 麻衣子

IPBESシナリオ・モデルタスクフォース技術支援機関の活動について

IPBESシナリオ・モデルタスクフォース
技術支援機関
プログラムマネジメントオフィサー
守分 紀子

質疑応答

総括

京都大学名誉教授
白山 義久

IPBES総会第11回会合 概要

- 期間：2024年12月10日～12月16日
- 場所：ナミビア共和国・ウイントフック
- 参加者：各国政府関係者・研究者等 約900人
- 主な議題：

(1)「生物多様性、水、食料及び健康の間の相互関係に関するテーマ別評価(ネクサス・アセスメント)」及び「生物多様性の損失の根本的要因、変革の決定要因及び生物多様性2050ビジョン達成のためのオプションに関するテーマ別評価(社会変革アセスメント)」にかかる報告書の政策決定者向け要約(SPM)の承認 →各アセス執筆者よりご報告

(2)「生物多様性と生態系サービスに関する第2次地球規模評価」スコーピング文書の承認

(3)その他、第2期作業計画2019-2030の実施状況に関する事務局長報告、IPBESの財政及び予算、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)への取組、能力構築、知識基盤強化及び政策支援、IPBESの有効性向上、次回(IPBES12)総会の時期・場所、等



その他の主な議題

●第2期作業計画2019-2030の実施状況に関する事務局長報告

→各アセスメント文書の作成に向けた作業は、大幅な遅延等のトラブルもなく、概ね順調に進展している。

●IPBESの財政及び予算

→2025年予算は10,237,955米ドル、2026年及び2027年の見込予算は、それぞれ9,879,550米ドル及び10,152,411米ドルとすることが採択された。日本からの拠出も表明。

●気候変動に関する政府間パネル(IPCC)との関わり

→前回会合(IPBES10)以降、生物多様性と気候変動に関し、IPCCとIPBESの協働が有益と思われるテーマ別や課題について、IPBES参加国から意見提出。

→本会合では、各国からの意見をとりとまとめた資料が提供され、今後実施予定の各アセスメント執筆者に対し、参考資料として提供されることとなった。

→また、IPBES参加各国のフォーカルポイントに対し、各国のIPCCのフォーカルポイントと引き続き連携し、科学協力及び情報共有を強化し、関連するプロセス、手順及び作業計画の理解を深める方策を、共同で検討するよう求められた。

●次回会合(IPBES12)

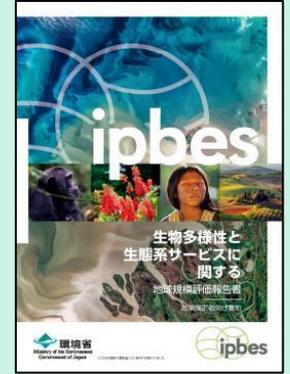
→イギリス・ロンドンで開催。時期は2026年1～2月で調整中。



「第2次地球規模評価報告書」の目的とプロセス

目的

- ・ 生物多様性の文脈における「持続可能な開発目標」「持続可能な開発のための2030アジェンダ」等関連する多国間協定の実施の支援
- ・ GBFのターゲット及び、持続可能な開発目標の達成に向けた進捗評価の支援
- ・ 2050年ビジョン達成のために必要とされる追加的取組における、科学的・技術的基盤や様々な知識体系、政策といった関連情報の評価



「生物多様性と生態系サービスに関する地球規模評価報告書」(2019)

アセスメントプロセス

2024

IPBES11
スコーピング承認

2025

専門家募集

メンバーの選定
(共同議長・
統括執筆責任者・主執筆者・
査読編集者等)

第1回
執筆者会合

2026

第1回外部レビュー
(専門家)

各章
第1ドラフト

第2回
執筆者会合

2027

第2回外部レビュー
(専門家・政府)

各章
第2ドラフト

SPM
第1ドラフト

第3回
執筆者会合

最終レビュー
(政府)

各章
最終ドラフト

SPM
最終ドラフト

第4回
執筆者会合

2028

IPBES15
SPM
承認

「第2次地球規模評価報告書」の章構成

第1章：背景説明

「自然の寄与」といった**IPBESの概念**に関する説明や、生物多様性領域における多国間協定（「昆明・モントリオール生物多様性枠組」等）に関する近年の動向、それぞれの章の関係や**全体の構成**について論じる

第2章： 異なる知識体系と先住民及び地域社会の役割

先住民及び地域社会における知識の認識及び活用、多様で多元的な価値観や世界観を探求し、自然と人々との相互関係の評価を行う
また、価値観、実践、管理、技術、制度等の検証を行い、社会的、文化的、経済的、環境的条件の変化に対する知識システムの対応についても検討し、「母なる地球とのバランスと調和を保ちながら、よりよく生きること」に関連する知識体系を評価、価値観の統合を行う。

※今回の評価報告書におけるスコーピングでは、**先住民及び地域社会**（IPLC：Indigenous Peoples and local communities）に関する記述は、第2章だけでなく、**すべての章に盛り込まれた**

第3章：現状と動向

4つの要素（生活の質の向上、直接的・間接的要因、自然、自然の寄与）に焦点をあて、現在の私たちの生活の傾向が国際目標等と、どの程度整合しているかを、「質の高い生活」の概念を基礎とし、自然との関連に注目して論じる

第4章：将来の道筋

政策立案や意思決定における**将来への道筋**への取り組みや評価について精査し、変革のペース及び規模に着目し、目的を達成するために必要な緊急の行動や、変革のビジョンを探求する方法を説明し、変革への道筋を検討する

第5章：行動のための選択肢

GBFの実施とモニタリングの進捗状況に関する初期の情報を検討し、生物多様性目標が、達成されていない原因や、あるいは成果を促進した要因等、過去からの教訓を考察し、成功例の構築を行う
また、**行動のための選択肢のポートフォリオ**を作成し、各アクターへの「選択肢」の提示を行う
最後に、**金融**に関して、その手法の有効性や、必要な費用及び投資に関連するデータをまとめる